

学会記事

一般社団法人日本地質学会 2021年度第5回理事会議事録

日時：2022年4月9日（土）14:00-18:10

【WEB会議形式】

出席者：出席理事43名，出席監事2名

- ・会長1名：磯崎行雄
 - ・副会長2名：佐々木和彦・平田大二
 - ・常務理事1名：中澤 努
 - ・副常務理事1名：岡田 誠
 - ・執行理事12名：ウォリス サイモン・大藤茂・緒方信一・狩野彰宏・亀高正男・小宮剛・坂口有人・高嶋礼詩・辻森 樹・星博幸・松田達生・矢部 淳
 - ・理事会議長1名：山口飛鳥
 - ・理事会副議長1名：納谷友規
 - ・理事24名（議長・副議長を除く）：芦 寿一郎・天野一男・安藤寿男・内野隆之・尾上哲治・笠間友博・亀田 純・川端清司・後藤和久・小松原純子・齋藤 眞・杉田律子・竹下 徹・内藤一樹・西 弘嗣・根本直樹・野田 篤・藤井正博・細矢卓志・保柳康一・松田博貴・三田村宗樹・道林克禎・矢島道子
 - ・オブザーバー1名：堀 利栄
 - ・監事2名：岩部良子・山本正司
 - ・事務局1名：澤木寿子
- 欠席者：欠席理事6名
- ・理事：上松（渡邊）佐知子・亀尾浩司・北村有迅・清川昌一・奈良正和・早坂康隆
- * 成立要件：理事総数49名の過半数25名 本日の出席者43名で本理事会は成立。
 - * 議決：出席者の過半数22名
 - * 開催にあたって、小松原理事および尾上理事を書記に指名した。
 - * 開会にあたり、磯崎会長より挨拶があった。
 - * 前回議事録確認を行った。

報告事項

1. 執行理事会全体報告（中澤常務理事）

中澤常務理事より2021年度第7回～第11回執行理事会の報告が行われた。主な点は以下の通り。地質学雑誌110巻1号以降のJ-STAGE公開PDFの保護解除及び差替作業が完了/日本語版国際年代層序表最新版(2021年10月版)に更新/「日本列島地質総覧」(加藤碩一ほか編集・執筆、朝倉書店発行)の編集協力依頼取り下げ/キャリアビジョン誌2021年版発行/2021年度地質系若手人材動向調査を実施中。地球科学系の大学教員の会員対象に回答を依頼中/地質情報展2022あいち(地質学会共催、2/19-20開催、来場者424名)の開催報告/JABEEオンラインシンポジウム「昔と違う イマドキのフィールド教育」(3/6)開催報告/JABEE地球・資源分野：新体制の発足。地質学会から委員として5名推薦/第13回防災学術連携シンポジウム(5/9開

催予定、テーマ：「自然災害を取り巻く環境はどう変化してきたか」)。応用地質学会と地質学会の共同での発表を予定/国際基礎科学年(IYBSSD)への協力について/新設賞の英語名称を定めた。

2. 委員会報告

1) 総務委員会（緒方理事、亀高理事）

緒方理事より、会員動静について説明が行われた。2022年3月末時点での会員数は合計3207名(昨年比-77名)。減少程度については、昨年度を除く過去5年間と同程度。前回理事会以降の逝去者5名に対して黙祷が捧げられた。また亀高理事より、会員システムのクラウド化に関する進捗状況が報告された。

2) 専門部会連絡委員会（辻森理事）

2021年度各専門部会の年次報告について説明が行われた。

3) 国際交流委員会（ウォリス理事）

2024年韓国釜山で開催予定のIGC37巡検への協力体制について状況説明が行われた。日本海表記の問題と竹島巡検の問題については話し合いを継続中。1stサーキュラー発表の予定から考えて、2022年夏頃までには決着をつけたい。またロシアとウクライナ問題に関して、EGU、JpGU等の対応が報告された。磯崎会長からはロシア学長連合の声明について、西理事からはIUGSの対応について、それぞれ情報共有があった。

4) 地質学雑誌編集委員会（大藤理事）

地質学雑誌の編集状況について説明が行われた。投稿数は昨年と比べてやや増加傾向。また128巻(2022年1月)より予定通り地質学雑誌の完全電子化がスタートしている旨が報告された。

5) アイランドアーク編集委員会（狩野理事）

IARの出版状況、編集状況等について説明が行われた。投稿数は例年に比べるとやや少なめ。2021年のインパクトファクターは増加の見込み。

6) 地学教育委員会（高嶋理事）

令和4年度の大学入学共通テストの地学関連科目の問題は、毎年課題とされてきた他の教科に対する平均点の低さも是正されたため、今後も同様の努力を続けていただくよう、大学入試センターへ意見書を提出したとの報告が行われた。

7) 生涯教育委員会（矢部理事）

日本地質学会 News 誌にて、2022年1月より「博物館で地学を学ぼう!」のシリーズ連載が開始された。また一般講演会、見学会、展示など、学会が主催、共催等する地質の日関連行事について説明が行われた。

8) ジオパーク支援委員会（天野理事）

JGASUより世界ジオパーク国内推薦申請書に関わるレビュー推薦依頼があり、2名を推薦した。またIUGSでは「ジオヘリテイジ」の選定が進んでいることが紹介された。

9) 地学オリンピック支援委員会（高嶋理事）

第14回日本地学オリンピックの開催報告があり、1582名の受験者から、4名が国際地学オリンピックの代表に選出された。選抜問題

への意見書が地学オリンピック支援委員会において現在検討中。

10) 選挙管理委員会（中澤常務理事）

2022年度代議員選挙、会長・副会長候補意向調査、理事選挙の結果報告があった。

審議事項

1. 名誉会員候補者の選出（佐々木副会長）

3名の候補者について総会に諮ることが承認された。

2. 各賞受賞者の決定（西理事）

各賞選考委員会西委員長より、受賞候補者の選考結果について報告がなされ、審議の結果、

以下の各賞について受賞者が決定した。

- ・功績賞（1件）高橋正樹会員
- ・H.E.ナウム賞（1件）片山郁夫会員
- ・小澤儀明賞（1件）石輪健樹会員
- ・柵山雅則賞（2件）岡崎啓史会員・宇野正起会員
- ・Island Arc Award（1件）磯崎行雄会員
- ・論文賞（1件）高嶋礼詩会員
- ・奨励賞（2件）中西 諒会員、加藤悠爾会員
- ・学会表彰（1件）伊予原新氏

(学会賞、国際賞、小藤次次郎賞、地質学雑誌特別賞は該当者なし)。

本年度は新しい賞の創設を行ったため、委員の中で賞の定義や推薦の範囲の認識に混乱がみられた。そのため、西委員長より各賞選考に関するワーキンググループを作って問題点と解決方法を検討する必要性が提案された。特に、1) 各賞の定義と推薦者の範囲を明確にすること、2) 各推薦者にそれらを通知・徹底してもらう手段をどうするか、3) 選考時に投票を行う場合の方法、の3点についての検討が必要。理事会を中心としたワーキンググループを立ち上げ、検討を進める方針が確認された。

3. 地質環境の長期安定性研究委員会の解散及び法地質学研究委員会の設立（辻森理事）

地質環境の長期安定性研究委員会より、運営に関する負担解消のため、発展的解散の申し出があり承認された。今後は環境地質部会をはじめ研究テーマに関連する専門部会に参加し、活発な議論を継続していく。また法地質学の学術的研究の推進と普及を目的とした法地質学研究委員会（委員長 川村紀子）の設立提案があった。設立趣旨などの説明があり、承認された。

4. 地質学雑誌投稿編集出版規則の改正（大藤理事）

地質学雑誌電子版投稿編集出版規則の改正案について承認された。プレプリントサーバーに掲載済みの原稿は、編集委員会で受け付けの可否を決定する。訳本を引用せざる得ない場合は、原典の先取権と情報のトレーサビリティ明確化のために、原典と訳本両方の出版年を明記する。

5. 2022年東京・早稲田大会のセッション変更と開催形式（星理事）

早稲田大会のセッション変更（地質学会 News 誌1月号記事参照）について事後承認された。また早稲田大会実行委員会提案のシンポジウム1件については承認されたが、執行理事会提案の2件については、早急に執行理事会で検討を進め、理事会でメール審議する。

大会の開催方法（口頭発表対面、ポスター発表e-poster、懇親会実施しない、表彰・顕彰式は現地実施）と巡検実施に向けてのルール・参加者への依頼事項について説明が行われ、承認された。ただし感染状況によっては完全オンライン開催など今後も変更がありうる。また、講演、巡検のキャンセルポリシー、講演取り消しの取り扱いについては引き続き詳細を検討する。

6. 学会活動におけるダイバーシティ&インクルージョン意識的啓発+キャリア支援事業の提案（ジェンダー・ダイバーシティ委員会堀委員長）

学会内でのダイバーシティ推進のため、2022年度以降の学術大会について、学術大会セッションへのEDI（Equality, Diversity and Inclusion）ロゴマーク付与（世話人申告制）と、地質分野新規参入“若手”研究者支援のためのECS（Early Career Scientists）ロゴマーク付与（自己申告制）が提案され、承認された。

7. 学会活性化に関わる会費等の変更と関連規則（定款、運営規則）の変更（佐々木副会長）

学会HP会員ページで2月15日に提案された「学会活性化に関わる会費などの変更についてのご提案」についてあらためて説明があり、承認された。なお定款および運営規則変更の承認については総会議案となる。

8. 表彰制度の見直しと関連規則（運営規則、各賞選考規則、各賞選考委員会規則）の変更（磯崎会長、中澤常務理事）

表彰制度見直し（2021年度第4回理事会承認済）に伴う運営規則および各賞選考規則、各賞選考委員会規則の変更について承認された。

9. 研究奨励金支給規則案（中澤常務理事）

野外地質学に関する若手育成事業のひとつである研究奨励金制度発足について、支給規則案が示された。支給対象、支給方法、会計報告などについて意見があがった。規則の細かな点については継続審議とする。

10. 2021年度事業実施概要（磯崎会長）

2021年度事業についての実績概要について説明がなされ、承認された。

11. 2022年度事業計画（磯崎会長）

2022年度の事業計画骨子案について説明がなされ、承認された。

12. 2021年度決算概算（緒方理事）

2021年度決算について説明がなされ、承認された。オンライン学術大会および普及事業関係（ショートコース受講料、キャリアビジョン誌掲載料）の増収により、収入全体は前年度よりやや増加し、最終的には黒字となっ

た。

13. 2022年度予算案（緒方理事）

2021年度予算案について説明がなされ、決算概算案、本予算案とともに承認された。

14. 総会議案の決定（中澤常務理事）

6/11（土）の総会議案について提案がなされ、承認された。

監事報告

1. 岩部監事より以下のコメントがあった。

早稲田大会の開催方法について状況に応じた柔軟な対応が出来るよう、引き続き検討をお願いしたい。また、業務の電子化・効率化については、支部・専門部会活動や選挙業務においては検討余地があるのではないかと。

2. 山本監事より以下のコメントがあった。

韓国IGC37における巡検への協力については、このままの状態であれば、残念ではあるが地質学会としては協力できないのではないかと。日韓の政治問題に関わることはできるだけ避けるようにしてほしい。

以上

以上、この議事録が正確であることを証するため、議長及び出席監事・理事は次に記名・捺印する。

2022年4月28日

理事：議長 山口飛鳥
理事：副議長 納谷友規
代表理事：会長 磯崎行雄
理事：副会長 佐々木和彦
理事：副会長 平田大二
監事：岩部良子
監事：山本正司
理事：出席理事名（省略）